

ティースシェル及びこれを用いた口元表情の可変方法

Teeth Shell and Method for Changing Appearance of Mouth Using Same.

三輪裕二、西和田英郎

Yuji Miwa, Hideo Nishiwada

E-mail : miwa-dc@jcom.home.ne.jp

和文要旨

従来の審美歯科に於ける臨床的な視点は口唇付近の“きれいな歯並び”“白い歯”に停まっており、美容外科的な顔貌の変化にまで拡げていない。そこで本稿では現存する歯に貼るだけで瞬時に口角・頬が上がり、その顔自体の明るさ・印象の変化を促す技法を提案する。この技法では、顔は細部の個人差が大きい組織であるのでその顔の物理的・運動的特徴を加味しながら、3次元的に顔の中の歯列・歯を分析しその個々の顔に合わせた対処法を考案せねばならない。また、装着者へのアンケート調査から従来の歯科領域の枠を越える美的効果・心理的効果が確認された。

キーワード：ティースデザインング、表情筋、笑顔、リフトアップ

Keywords : Teeth designing, Facial muscle, Smile, Lift up

1. 緒言

顔貌を構成する要素の中で、歯が重要な役割を担っていることは明らかであるが、口腔外科的処置・歯科矯正処置・歯牙切削処置を行わずに顔貌をコントロールする方法を検討した。本法はラミネート・ベニア・クラウンの治療方法を応用したものであるが、一連の段階における作業方法、顔貌のコントロールを考慮した点については従来法と異なる特徴を持つ。

2. 方法

2.1. 材質及び形態

歯科用光重合型 MFR ハイブリッド超硬質レジングラデュア(GC社製、以下光重合レジンと記す)を用い、採得した模型上で薄いシェル状に築盛・重合し、歯の表面に接着する。ティースシェル(図1)の厚みは薄いものは約1mm以下である。

2.2. 適応部位

基本的にティースシェルは上顎歯列頬側のみに適応し、上下顎の咬合、下顎の前・側方運動に関与しないスペースを用いる。

2.3. 製作方法

1) 診断・説明・カウンセリング

口腔内の診断・施術説明・被験者の希望の聞き取りを行う。診断では各種検査(唾液検査・細菌



図1. 製作されたティースシェル